

第1位

70316P

前回1位

変動なし

完全無欠のサラブレッド

ディープインパクト

競走馬、種牡馬としての実績
語り継ぐ「物語」はさらに続く

この「未来に語り継ぎたい名馬」の投票は今回が3回目となるが、過去2回に続き、またしてもディープインパクトが1位に輝く結果となった。第1回は2010年、ディープインパクトの引退からはまだ3年少々という時期の投票だった。若駒Sの衝撃。皐月賞の出遅れ。日

本ダービーの無敵感。無敗の三冠制覇。有馬記念でハーツクライに敗れた直後の異様な空気が。凱旋門賞を包んだ祝祭感と、信じられないほど苦いその顛末。帰国後のジャパンC圧勝のカタルシスと、有馬記念の大団円。その奇跡的な走りから得たさまざまな感情は、まだ生々しく僕たちの中に残っていた。第2回の投票は、その5年後の15年だった。ターフではすでにジェンティルドンナやキズナなど教え切れない産

駒が活躍し、12年に獲得したリーディングサイヤーのタイトルは、この先、何年取り続けることになるのか見当もつかなかった。不世出の大種牡馬で父のサンデーサイレンスを、もしかしたら超えるのではという予感、その後、産駒の通算勝利数などいくつかの記録で本当に実現した。僕たちが投票したのは、「最強馬」で「最強種牡馬」という、ほとんどマンガのような存在となったディープインパクトだった。

あれから9年。ディープインパクトはすでにこの世を去った。産駒も徐々に減り、昨年、ついにリーディングの座も明け渡した。しかし語り継ぐべき「物語」は、また話の途中にすぎない。父仔で無敗の三冠馬となったコントレイルの種牡馬としての活躍はまさにこれからだし、ラストクロップから現れた英ダービー馬オーギュストロダンはまだ現役だ。その血は現在進行形で大きく延び、世界へ広がりに続けている。かつて競走馬として、種牡馬として感動をくれたディープインパクトが今、僕たちに与えてくれていたものは。血統表の何代か前の馬がどれほど強い馬なのか、まるで先週のレースのように語ることができる、そんな競馬ファンとしての幸せなのかもしれない。

DEEP IMPACT'S

Impressive Scenes

Y.Takahashi



衝撃を与えた1戦
2005年 若駒S(OP)

道中は後方の外めを追走。直線で前を行く馬たちを余力十分に差し切った。流しつ上がり33秒6の脚で5馬身差。見るものに衝撃を与えた

Photostud



圧倒的な支持に応える
2005年 日本ダービー(GI)

単勝支持率73.4%とレース史上1位の支持を受ける。ライバルが絶好のタイミングで抜け出すも、大外から豪快に抜き去って完勝

Photostud



自らの走りで悪夢を振り払う
2006年 ジャパンC(GI)

凱旋門賞失格からの帰国初戦。道中最後方から鋭い末脚を繰り出し、「いつも」のように快勝。不完全燃焼に終わった前走のうっぶんを晴らす

年代別・性別ランキング

10代……2位	50代……1位	男性……1位
20代……2位	60代……1位	女性……1位
30代……1位	70代……1位	
40代……1位		

10代、20代を除くすべてで1位を占める

Voter's Voice

新馬戦から引退レースの有馬記念まで、まさに忘れられない、私の心の中では世界最強馬です(70代以上・男性)●近代日本競馬の最高傑作。無敗の三冠馬。種牡馬としても大活躍(40代・男性)●強さ、話題性、人気など、どれを取っても一番(40代・男性)●未だに彼を超える馬には出会っていません(40代・男性)

※76ページにディープインパクトの名馬物語を掲載

2002年3月25日生 牡 鹿毛
父サンデーサイレンス
母ウインドインハーヘア(父Alzao)
馬主/金子真人氏
→金子真人ホールディングス(株)
調教師/池江泰郎(栗東)
生産牧場/ノーザンファーム
通算成績/14戦12勝(うち海外1戦0勝)
総取得賞金/14億5455万1000円
主な勝ち鞍/06有馬記念(G I)
06ジャパンC(G I)
06宝塚記念(G I)
06天皇賞(春)(G I)
05菊花賞(G I)
05日本ダービー(G I)
05皐月賞(G I)
06阪神大賞典(G II)
05神戸新聞杯(G II)
05弥生賞(G II)
馬名の由来/深い印象



優馬

YUSHUN